

生徒の自己表現力を高める英語科学習指導 —スモールステップを意識した教材作成を通して—

津久見市立第一中学校 足立 和寛

はじめに

現行の学習指導要領では、外国語の一つである英語の学習を通して、「言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」(注1) ことが目標として掲げられており、その達成に向けて日々の授業を行っている。基礎的な言語活動をバランスよく計画的・系統的に行い、言語材料の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成することが求められている。

学校教育法第30条の第2項においては、基礎的知識・技能の習得、これらを活用して課題解決を図る思考力、判断力、表現力の育成、そして主体的に学習に取り組む態度の学力の3要素を生徒に身に付けさせることが求められている。生徒の基礎的・基本的な知識技能の習得とそれを生かした活用力の向上を図る授業改善は喫緊の課題となっている。

津久見市外国語部会では、各単元の終末に自己表現活動を、更にいくつかの単元のまとまりごとにも書くことを中心とした自己表現活動を設定し、生徒の活用力の向上に取り組んでいる。系統的・継続的な指導を行い、3年間の学習の成果として自由英作文を書くことができる生徒の育成を目指している。しかし授業中での様子を見ると、まとまった文を書くことに苦手意識をもつ生徒は少なくない。知識技能の習得から活用力の向上へとつなぐ手立てとなる授業が急展開で行われ、特に苦手意識をもつ生徒にとっては取組に困難さを感じさせている。これは、筋道立ったつながりのある文を書くための、段階を踏んだ言語活動の不十分さが一因であると考えられる。

以上のことから、知識技能の習得から活用力の向上へとつなぐ授業の構築を目指し、津久見市外国語部会の取組と並行し、「書くこと」における生徒の自己表現力を高めるための学習指導の在り方と授業での具体的な手立てを探っていくことにした。なお、本研究では、書く活動における「自己表現力」を「学習した文法項目を正確に使って表現する力」「ディスコースマーカー（接続詞などの話の筋道を示す言葉）などを適切に使用し筋道立てて表現する力」とし、研究を進めていく。

I 実態と研究の方向性

1 実態把握

(1) 生徒の実態

① 県学力定着状況調査と学習意識調査

平成27年度大分県学力定着状況調査の結果から、「書くこと」に関して、「与えられた情報の要点を把握して適切に書くこと、適切な表現を用いて書くことに課題がある」(注2)と分析されている。改善事項として、多くの生徒が「書くこと」に困難さをもっており、自分の思いや考えを適切な表現を用いて「書く」ための手立てとなる授業の充実が指摘されている。

津久見市の英語科の結果を見ると、平成26年度は全国偏差値を知識・活用共に1.8ポイント上回っており、一見授業の充実の成果が見られるが、平成27年度の結果は知識49.9活用50.0であり、昨年度の結果を大きく下回る結果であった。過去数年の状況を見ると、年度によって差があり、津久見市の子どもたちに安定した英語力がついているわけではないことが見てとれる。

② 単元テスト

津久見市立第一中学校3年生(74名)を対象に「自己表現力」に関する実態調査(単元テスト)を行った。New Crown[®] English Series(三省堂) Lesson 3 終了後に、オーストラリア出身のALTへのインタビュー形式の会話文を読み、それを参考にしてALTを学校新聞で紹介する文を書くという設定で行った。

<資料1> 単元テスト(Lesson3)集計結果

第一中学校 3年生 Lesson 3 単元テスト(表現)集計

評定	観点①	観点②	観点③	総合評定
A	28 40.6%	33 47.8%	33 47.8%	30 43.5%
B	7 10.1%	23 33.3%	22 31.9%	22 31.9%
C	26 37.7%	5 7.2%	6 8.7%	9 13.0%
D	8 11.6%	8 11.6%	8 11.6%	8 11.6%

観点①
文法

観点②
量とつながり

観点③
情報の運用

※評定D=無回答
(正しい英文が3文以下)

◇インタビューで得た情報をもとに、人を紹介する文を書くことができる。

観点① 前置詞、副詞等を用いた現在完了形の文を正確に書ける。

観点② 1つの話題を発展させ、接続詞などを使って話題を展開できる。

観点③ 第3者を紹介する文を書くことができる。

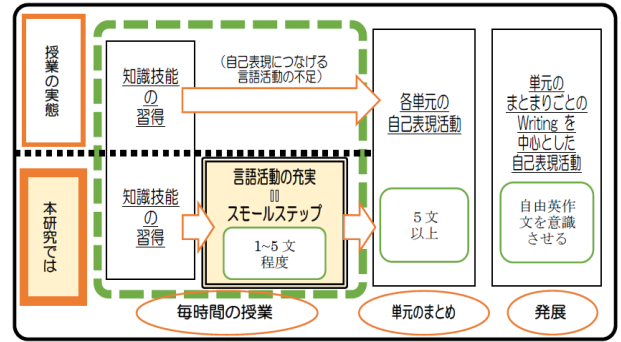
なぎとなる言語活動を充実させることである。授業ではパターンプラクティス的な活動が中心となっているにも関わらず、単元末の自己表現活動ではまとまりのある多くの英文を生徒に書かせていた。書くための手立てとなる言語活動を行い、それを積み重ねることが大切である。新出の文法項目を使った1文で終わらず、内容のつながりのある教文を加えて書くような、スモールステップとなる言語活動を設定したい。

二つ目は、そのような言語活動の重要性をほとんどの英語教員が認識しているが、実行不十分な現状があることを、具体的に改善することである。そのためには限られた時間で、効率良く効果的な言語活動を行うための授業マネジメントと教材教具の準備が必要である。スモールステップとなる言語活動を毎時間行うための教材を準備し、ICTを活用することで、活動前の説明などを効率良く行うことが、有効な改善策であると考えられる。

三つ目は、生徒の取り組む意欲を喚起するような工夫を施した授業改善である。苦手意識をもっている生徒の大半は、取り組む以前に「書けない」と思い込んでいる現状がある。そのような生徒に「書けるかもしれない」「書いてみよう」と思わせたい。そのためには、生徒に必然性を感じさせるような題材の設定や学習形態に工夫を施した授業改善に取り組む必要がある。そのような工夫を施した授業でスモールステップを踏むことで、生徒の学習意欲を喚起したい。

なお、本研究における「スモールステップ」については、〈資料3〉に図示した。

〈資料3〉 スモールステップについて



2 文法項目ごとの扱うべき内容の分類と設定

3年間の学習を通して系統的・継続的に言語活動を行っていく上で、付けたい力を明らかにして、計画的に指導を進めていくことが必要である。そこで、自己表現力を高めるための授業改善の手立てとなる教材を作成するにあたり、以下の項目で教科書の文法項目ごとの扱うべき内容を分類し設定した。

- ・新出の文法項目の確認（言語材料）
- ・付けたい力（教科書の言語活動→教材での言語活動）
- ・復習事項（言語材料を活用する言語活動を行う上でのつまずきの要因）

これらを表にまとめ、3年間の言語活動において系統性をもたせる指針として教材作成において活用した。〈資料4〉はその一例である。

〈資料4〉 教科書の文法項目ごとの扱う内容

学年	LESSON	Title	GET	言語材料 (文法項目)	教科書の言語活動 (付けたい力)	復習事項 「使ってみよう + a」	単元のまとめの 自己表現活動	まとめごとの 自己表現活動
3年	L4	The Story of Sadako	①	動詞 + A + B (第5文型 SVOC) ①call + A + B ②make + A + B	何をするとどんな気持ちになるか説明することができる (自分の好きなキャラクターの呼び方などについて学習事項を使って紹介することができる)	接続詞を適切に使って文を組み立てる (And, But, So, ...)	物語の要約文を書く。 (要約文)	○○のすばらしさを紹介(理由を明らかにして○○のすばらしさを伝えよう)
			②	It ~ (for A) to ...	自分にとって難しいことや簡単なことについて説明することができる (自分にとって大切なことやうれしいことを理由と共に学習事項を活用して伝えることができる)	Why~?Because...を使って理由を尋ね、述べる		
	L5	Houses and Lives	①	関係代名詞 (主格) I ①that (人やものを説明するとき)	家にあるものを関係代名詞を使って説明することができる (学習事項を使って人やものについてのクイズを作ることができる)	既習事項から後置修飾を確認する (後置修飾でよく使う前置詞①)	日本の文化についてプレゼンテーションをする。 (発表)	
			②	関係代名詞 (主格) II ①who (人を説明するとき) ②which (ものを説明するとき)	職業について関係代名詞を使って説明することができる (自分の理想とする人物像を学習事項を使って説明することができる)	後置修飾をマスターする (後置修飾でよく使う前置詞②)		
			③	関係代名詞 (目的格) ①that (人やものを説明するとき) ②which (ものを説明するとき)	家にあるものの機能を関係代名詞を使って説明することができる (日本のものを学習事項を使って外国人に紹介することができる)	関係代名詞thatを使う 先行詞を知る		

単元のまとめの自己表現活動につなげるために、新出の文法項目（教科書のGet）ごとに学習事項を活用した言語活動を設定する。教科書の練習の活動も活用ながら、「付けたい力」を明確にした言語活動を通して活用力を付ける。その言語活動を行うにあたっての生徒のつまずきの要因となる既習事項や説明が必要な事項を「使ってみよう+α」として表中に示した。

3 教材の作成

(1) ワークシートと説明用プレゼンテーション

具体的な授業改善の取組として、「教科書の文法項目ごとの扱う内容」にそって、1年生から3年生まで新出文法項目ごとに言語活動を進める教材作成に取り組んだ。教材は自己表現活動へのスモールステップとなるように意識した。教材は、新出の文法項目を扱う言語活動用の「ワークシート」と、その活動を円滑に行うための説明を短時間で効率よく行う「説明用プレゼンテーション」（※以下「プレゼン」と表す）の二つを一セットとして作成した。

教材作成においては、生徒の活発な自己表現活動につながる教材となるよう、次の点を意識した。

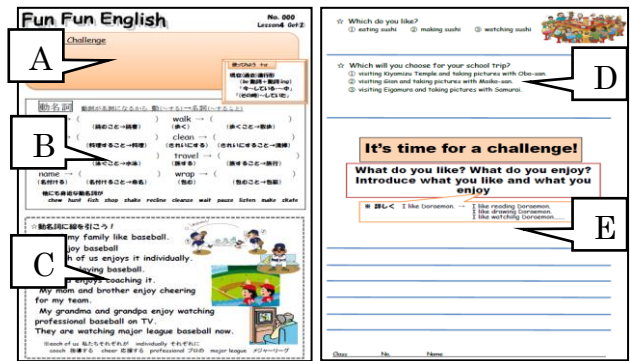
- ・「知識・技能」の習得を「活用」につなぐスモールステップとなるもの
- ・時間をかけずに取り組める手頃なもの(15分~30分程度)
- ・ICTを効果的に活用することで説明を簡素化し、生徒の活動時間を確保できるもの
- ・英語が苦手な生徒にも配慮し、生徒が興味をもって取り組める工夫を施したもの
- ・「使ってみよう+α」などで新出の文法項目以外にも、ポイントとなる内容の復習や確認ができ、生徒が取り組みやすくなる工夫を施したもの

(2) スモールステップを意識した教材例

ここでは作成した教材の一例を、授業での活用例とともに紹介する。

- 教科書と題材：New Crown English Series② 三省堂 Lesson4 Get Part②
- 新出の文法項目：動名詞
- 言語活動：自分や友達の好きなことについて動名詞を使って説明することができる。
- 復習事項：現在分詞の作り方
- 使ってみよう+α：進行形の文との区別
- 単元のまとめの自己表現活動：身近な地域の名所・名物を紹介する英文を書く。

<資料5> ワークシートの構成



この教材は5つのパートで構成されており、それぞれのパートでワークシートとプレゼンを効果的に示しながら進める。それぞれの活用場面（A~E）と作成の意図、使用するプレゼン資料について、パートごとに順を追って述べる。

A. めあての確認（生徒が本時のめあてを確認する）

Today's Challengeとして、本時の新出の文法項目とそれを活用して何ができるようになるのか確認し、本時のめあてとしてワークシートAに記入させる。

ワークシートA



B. 活動1（「使ってみよう+α」も扱い活動の準備）

ここでは動名詞を活用する言語活動を行うにあたり、動詞と名詞の概念を生徒に確認させたい。まず、スライド②で日本語としても馴染みのある単語を使って語彙の復習を行いながら、動詞を意識させる。次に、スライド③~⑩を示して動詞と名詞の違いを整理し、動名詞について確認する。名詞や動詞という文法用語がつまずきとなっている生徒にとっての助けとなると考える。現在分詞の作り方を復習し、ワークシートBに自分で記入して確認する。また現在分詞を使った既習事項である進行形との違いをワークシートA右下の「使ってみよう+α」を扱いながら、短時間で確認して意識させる。

特に苦手意識をもった生徒が、学習事項である動名詞を活用する活動に円滑に取り組めるよう配慮し、ペアで基本事項を確認する等、学習形態の工夫も行い短時間で復習させたい。

ワークシートB

動名詞 動詞が名詞になるから、動(～する)→名詞(～すること) read → (読む) (読むこと→読書) walk → (歩く) (歩くこと→散歩) cook → (料理する) (料理すること→料理) clean → (きれいにする) (きれいにする→清掃) swim → (泳ぐ) (泳ぐこと→水泳) travel → (旅する) (旅すること→旅行) name → (名付ける) (名付けること→命名) wrap → (包む) (包むこと→包装)	
他にも身近な動名詞が chew hunt fish shop shake recline cleanse wait pause listen make skate	

スライド①～⑩

①	Can you say any verbs? 動詞	②	read 読む cook 料理する swim 泳ぐ name 名付ける	walk 歩く clean きれいにする travel 旅する wrap 包む	③	read reading
まずは「動詞」について確認します。		ここでの学習事項である「動名詞」として生徒の身近な動詞を選んでみます。		既習事項である現在分詞の作り方の復習と動名詞について復習(読む-読むこと(読書・リーディング))		
④ ⑤ ⑩	walk cook clean swim travel name wrap walking cooking cleaning swimming traveling naming wrapping	歩く 料理する 掃除する 泳ぐ 旅する 名付ける 包む ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 歩くこと 料理すること 掃除すること 泳ぐこと 旅すること 名づけること 包むこと (散歩・ウォーキング) (料理・クッキング) (掃除・クリーニング) (水泳・スイミング) (旅行・トラベリング) (命名・ネーミング) (包装・ラッピング)				

C. 活動2 (実際の英文中での使い方を確認し参考にする)

ワークシートCの動名詞に線を引く活動を通して、活動1の理解度を確認する。実際の英文中の使い方を知るとともに、活動で英文を書く際の参考にさせたい。また、動名詞と進行形の見分けをさせることで、既習事項との整理を促している。ICTを活用しスライド⑩を示すことで、短時間で視覚的に整理して活動の確認が行える。

ワークシートCとスライド⑩

⑩	※動名詞に線を引こう! All of my family like baseball. We enjoy baseball but each of us enjoys it individually. I enjoy <u>playing</u> baseball. My dad enjoys <u>coaching</u> it. My mom and brother enjoy <u>cheering</u> for my team. My grandma and grandpa enjoy <u>watching</u> professional baseball on TV. They are <u>watching</u> major league baseball now. ※ each of us 私たちそれぞれが individually それぞれに coach 指導する cheer 応援する professional プロの major league メジャーリーグ		現在分詞の作り方はわかった。既習事項の進行形でも現在分詞は使います。動名詞と進行形の文の見分けをつける練習をし、動名詞の使い方の例として表現活動の参考にする文です。
---	--	--	--

D. 活動3 (一文に口頭で理由などを付け加える)

生徒が頻りに口に出す I like sushi. という平易な文や修学旅行で訪れる京都での行動という身近な内容について扱うことで、興味をもたせながら動名詞の使い方を意識させたい。全体でスライド⑫⑬を見ながら数名の生徒と口頭でのやり取りをし、動名詞を使った一文に理由等を付け加えて話す活動を行う。

ワークシートDに自分の考えと理由などを記入し、その後ペア活動やグループ活動で会話練習を行う。ユニークな写真を用いて詳細に説明する必要性を感じさせる活動を通して、動名詞を使うと行動を詳しく伝えることができることを実感させたい。

ワークシートD

☆ Which do you like? ① eating sushi ② making sushi ③ watching sushi	
☆ Which will you choose for your school trip? ① visiting Kiyomizu Temple and taking pictures with Obo-san. ② visiting Gion and taking pictures with Maiko-san. ③ visiting Eigamura and taking pictures with Samurai.	

スライド⑫⑬

⑫	Do you like sushi? and... Which do you like? 	⑬	Which will you choose?
生徒がよく使う 'I like sushi.' をより詳しく動名詞を使うことで言えることを実感させます。		修学旅行を楽しみにしている生徒たちに、身近に感じてもらおう題材を選びました。	

E. 活動4 (本時の言語活動)

活動1～3を足掛かりに、動名詞を正確に使って自分自身の好きなことや楽しんでいることを詳しく表現させたい。Aでめあてを確認しているので、生徒から活動内容と学習事項である「動名詞」というキーワードが出るよう期待する。スライド⑭を示して再確認する。全員が動名詞を使った英文に、更に1～2文を付け加えて書けることを目標としている。

ワークシートE

It's time for a challenge! What do you like? What do you enjoy? Introduce what you like and what you enjoy in detail!	
※ 詳しく I like Noraekun. → I like reading Noraekun. I like drawing Noraekun. I like watching Noraekun.....	

スライド⑭

⑭	It's time for a challenge! What do you like? What do you enjoy? Introduce what you like and what you enjoy in detail! Let's use 動詞-ing (動名詞)
あくまで目標は動名詞を正確に使って、より詳しく自分の言いたいことを表現することです。	

実際の授業では、それぞれが書いた英文の読み合いや伝え合いなどの交流を通して、技能統合的に活用する。

III 教材を活用した授業

1 検証授業

(1) 検証授業の概要と検証の視点

作成した教材を実際に活用し、自己表現力を高めるための教材の有効性を検証するために、津久見市立第一中学校3年生(2クラス・74名)を対象に検証授業を行った。

新出の文法項目である関係代名詞を扱ったLesson5を題材とした。単元のまとめの自己表現活動として「自分の宝物を紹介する英文を書き友達に紹介する」という課題を設定し、それに向けてスモールステップとなる言語活動を重ねていった。まず関係代名詞を学習するにあたり、語順や修飾関係などの日本語と英語の違い、特に後置修飾を復習事項(つまずきの要因の解消)として扱う必要があると考えた。そこで既習の後置修飾の文を扱いながら日本語との修飾関係の違いを整理し、新出の文法項目である関係代名詞を活用できるよう教材を作成し授業を行った。

授業における教材の有効性の検証の視点を以下の3点に設定した。

① 言語活動を充実させる教材としての有効性

習得した「知識・技能」を「各単元のまとめの自己表現活動」での活用につなげるために、言語活動において効果的に機能する教材になっているか

② 授業の効率化を促す教材としての有効性

ペアやグループなどの授業形態の工夫やICTを活用した説明の簡素化で、効率良く活動時間を使えるような教材になっているか

③ 生徒の学習意欲を喚起する教材としての有効性

特に苦手意識をもっている生徒(C・D評価の生徒)たちの自己表現活動への積極性を促す教材になっているか

(2) 授業を通しての生徒の反応と分析

検証授業後の授業アンケートから生徒の声を検証の視点ごとに取り上げ分析した。

① 言語活動を充実させる教材としての有効性

- ・関係代名詞whoを使えたのでめあてはクリアしたと思う。(D)
- ・ワークシートをもとに、ペアで協力できて、whoの使い方などを理解することができた。(C)

- ・今日は一人で作業することが中心だったけど、ワークシートが分かりやすかったので、それを参考にして書くことができた。(C)
- ・関係代名詞をもっと学習したいと思った。復習をしてくれたので、授業がとてもわかりやすかった!(B)
- ・授業内容がしっかりとしていてわかりやすかった。集中して取り組むことができる内容だった。(B)
- ・短い文しか書けなかった。(A)

※(A・B・C・D)はLesson3単元テストでのその生徒の評価

ワークシートの内容を参考にして英文を書くことができたという声が多く聞かれた。また既習事項ではあるが、つまずきの要因となりがちな内容を復習することで、活動がスムーズに流れた。苦手意識をもつ生徒が取り組む上での助けにもなり、無理なくめあてを達成させることができた。

多くの生徒が学習事項を使った文に数文加えてまとまった英文を書くことができた。英語が苦手な生徒も、ワークシートの例文やペア活動などで作った文を参考にして書いており、充実した言語活動の成果が見られた。

しかし、教材によっては評価Aの生徒であっても短い文しか書けなかった活動もあり、教材の難易度に課題が見られた。

② 授業の効率化を促す教材としての有効性

- ・難しかったけど、ペア活動もあったし、パソコンでまとめてくれていたので楽しかった。(C)
- ・前の説明で文法や文の作り方がよく分かったので、最後の活動がスムーズにできた。(B)
- ・リスニングが苦手なので、質問したことを黒板に書いてくれるのが分かりやすかった。(B)
- ・原稿も書き終えたし、他の人に教えることもできて本当によかった。また先生が分かりやすい例を出してくれたので書き進めやすかった。(A)

※(A・B・C・D)はLesson3単元テストでのその生徒の評価

プレゼンの活用による効率良い説明で、活動へのスムーズな流れができていた。授業にテンポが生まれ、生徒が集中して取り組めた。苦手意識をもっている生徒には、ペアやグループでの活動が有効で、形態の工夫によっても活動の効率化を図れた。

生徒の反応から、スクリーンには映し出されても次々に消えていくので振り返れないというデメリットに気付かされた。ポイントを絞って板書をし、学習の流れを残すなど工夫する必要がある。

③ 生徒の学習意欲を喚起する教材としての有効性

- ・とても楽しかった。またやりたい。(D)
- ・今までの授業の中で一番積極的に取り組めたと思います。英語は苦手ですが、いつもやる気がないけど、今回は文を少しでも書けたので良かったです。(C)

- ・まだ上手く表現できてないから頑張ろうと思った。(C)
- ・クイズは難しかったけど、楽しかった。(C)
- ・クイズがおもしろくて、その内容も頭に入ってよかった。(C)
- ・クイズを出し合うとき、とても楽しかった。(C)
- ・マッピングをして、自分の宝物について積極的に書くと思った。(B)
- ・毎回誰でも分かるアニメを題材にしている、とても分かりやすく楽しい授業だった。(A)

※(A・B・C・D)はLesson3 単元テストでのその生徒の評価

苦手意識をもつ生徒も興味をもって取り組めていたことが、生徒の声から感じられる。「楽しかった」という感想だけでなく、「やりたい」「頑張ろう」と学習に意欲を示す声が多くあった。「分かる」「できる」ような手立てを施した授業によって、苦手意識をもつ生徒にも学習意欲を喚起することができた。

しかし、活動によっては、英文の内容や量から意欲の低さが感じられるものもあった。ワークシートの例文や活動の難易度の差がその原因であると考えられる。

<資料6> 授業アンケートの結果

項目	あてはまる	ほとんどあてはまる	ほとんどあてはまらない	あてはまらない
1 今日授業の「めあて」ははっきりしていた。	93.5%	5.3%	0.9%	0.3%
2 今日授業の「めあて」は達成できた。	69.9%	24.5%	4.7%	0.9%
3 活動の説明のプレゼンはわかりやすかった。	94.1%	4.7%	0.6%	0.6%
4 ワークシートはわかりやすかった。	95.0%	3.2%	1.2%	0.6%
5 活動に積極的に取り組むことができた。	68.4%	20.9%	8.8%	1.8%
6 ペアやグループで教え合いがあった。	74.3%	14.5%	5.3%	5.9%

<資料6>は、検証授業後に毎時間行った生徒へのアンケートの集計結果である。

- ・項目1の結果から、ワークシートのA部分において「めあて」を生徒に確認させることが有効に働いていることがうかがえる。
- ・項目3、4の結果から、教材に対して生徒が肯定的にとらえ、教材が学習内容の理解に役立ち、活動を充実させていることが分かる。
- ・教材への肯定感と比較して、項目5、6では肯定的な回答の割合が減っていることから、活動の流れや形態の中で、ペア活動やグループ活動を効果的に活用するなど更なる工夫が必要である。

(3) 単元テストの比較

自己表現力の定着について、検証授業後にLesson5の単元テストを行い、検証授業前のLesson3の結果と比較した。Lesson3でC・D評価であった生徒の変容を中心に記述内容を分析した。

○新出の文法項目を活用できるようになった例

<資料7> 生徒1 (D評価→C評価) Lesson5の答案

Today, I met and talked with Sylie.
Sylie went to in Aichi last summer.
And Sylie saw this house in the movie 'My Neighbor Totoro'.
This is a picture that is the model of a house in a famous story ^{story} of My Neighbor story ^{Totoro} famous in Australia.

<資料7>の生徒は、Lesson3においては、インタビューの文を代名詞のみ変えた英文2文しか書いておらずD評価であった。今回は、完全な文ではないが関係代名詞を使用して1文書けている。正確さや筋道立った文を書くという面では課題が残るものの、授業での言語活動に積極的に取り組んできた成果が見られた例である。

新出の文法項目の活用において、現在完了形と比較すると関係代名詞は学習事項としての難しさがあつた。A評価の生徒は若干減少したが、C・D評価の生徒の割合は約1割減少し、多くの生徒が前回の評価を1ランク上回る評価であった。

○授業での言語活動で意欲が向上した例

<資料8-①> 生徒2 (C評価) Lesson3の答案

Sylie is our ALT from Australia.
Sylie has came to Japan since two years ago.
She Her favorite food is fugu.
She cannot eat it very often.
She has ever ate ^{eaten} fugu.

<資料8-②> 生徒2 (C評価) Lesson5の答案

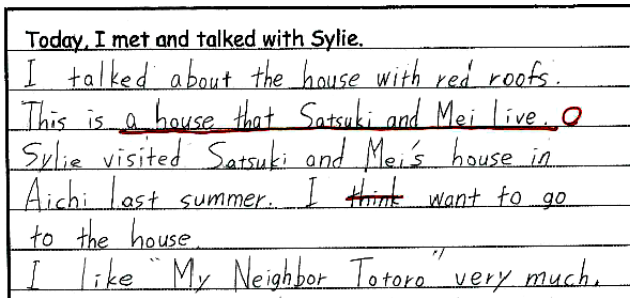
Today, I met and talked with Sylie.
Sylie knows the model of a house that famous story. And she visited Satuki and Mei's house in Aichi.
Sylie took picture who ^{of} Australian friend, because 'My Neighbor Totoro' is popular in Australia.

評価は共にC評価であるが、英文の質には向上が見られる。二つの答案を比較すると、共に4文であるが、使用した語数は3割以上増えている。内容面では、すべての文を元のインタビュー文の代名詞を変換して書いていたが、複数の情報について関係代名詞を使って1文で書こうと試みている様子が見てとれる。文法項目においては、前回は過去形との使い分けなど、現在完了形の基本的な使い方が理解できていなかった。今回も関係代名詞の使い方には誤りがあり不十分ではあるが、先行詞を後置修飾するために関係代名詞を使うという使用場面は理解できていることがうかがえる。この生徒は授業アンケートでは「ペア活動で関係代名詞の文の作り方を教えてもらったので、今度は自分で作りたい」と書いており、言語活動においても積極的に取り組む姿が見られた。言語活動を通して意欲の向上が見られ、継続的な取り組みによる今後の成長が期待される例である。

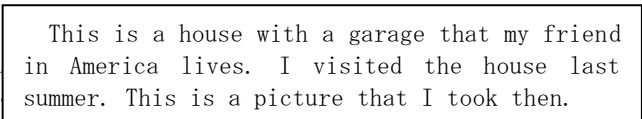
D評価（無回答・書いた文が3文以下）の生徒の割合が11.6%から7.1%になり、苦手意識をもっている生徒に、書こうとする意欲の向上が見られた。関係代名詞を正確に使う活動としては不十分さが見られるが、苦手意識をもった生徒も関係代名詞を使おうとしている答案は多く見られた。

○言語活動で学習した内容を活かしていた例

<資料9-①>生徒3 (C評価→B評価) Lesson 5 の答案



<資料9-②>生徒3 Lesson 5 Get③の言語活動作品



授業において後置修飾を使う練習を行い、言語活動として「アメリカ人の友達が住んでいるガレージ付きの家」を紹介する活動を行った。〈資料9〉②はこの生徒が言語活動において、ペア・グループ活動を通して最終的にワークシートに記入した英文である。この英文をうまく活かして単元テストに回答していることが分かる。

授業中には仲間の力を借りて書いたものだが、その英文を参考にして関係代名詞や前置詞withを的確に使うことができていた。言語活動で学習した内容を活かしていた例である。

言語活動で書いた英文を参考にして回答は、他にも多く見られた。授業中の言語活動では一人で書けなくても、仲間の力を借りながら、自分で英文を完成させたことが、英語の得意不得意に関わらず、必要なスモールステップとなっていると感じた。

2 津久見市外国語部会との連携による授業

(1) 教材の共有と反応

本研究の構想を部会員に説明し、2学期から、作成した教材を活用した授業実践の依頼を行った。夏休み中の外国語部会で、教材作成の意図や教材の活用について、ワークショップも交えながら説明を行った。その場で、ICT活用のハード面での困難さなど、いくつかの課題が出された。2学期からは、作成した教材を可能な範囲で実際に活用してもらい、生徒の作品と共に、意見や感想をもらい、それを参考に教材の改良を進めてきた。

作成した教材データは、学校ごとの実態や教員のイメージに合わせて、写真や文などを改良することが可能である。その改良版も含めて、OENドライブの共有フォルダを利用して、データ共有を行っている。

以下は部会員から寄せられた声である。

- ・少人数での授業を行うにあたり、教室、PC、プロジェクター、大型テレビなど片方のクラス分しかなく、ハード面の不十分さがある。
- ・生徒の興味を引き付ける内容であるが、難易度が高く生徒が苦戦していたものもあった。
- ・説明や前置きに時間がかかってしまい、活動の時間を十分に確保できなかった。
- ・内容が盛りだくさんで、2時間使ってしまった。
- ・作成した教材を使っての授業がとても楽しみである。子ども達はきっと良い表情で授業を受けてくれるに違いない。
- ・生徒が先に形容詞を復習してからメインの活動に入れたことで、スムーズに活動が進められた。

(2) 研究授業

津久見市教育研究協議会の一斉部会で、作成した教材を活用して、第一中学校の門田教諭が提案授業（1年生）を行った。事前に教材作成の意図や授業での活用について打合せていたが、実際に活用する場面を客観的に見ることで、自分の作成時のイメージとは違った活用法に気付くことができた。ワークシートを使用する場面、例文の提示の仕方、板書との組み合わせなど参考となり、

今後の教材活用の発展性を感じた。また津久見市の教員同士が連携し、教材と授業を共有し、意見交流することが授業改善に有効であると確信することができた。

3 教材を活用した授業を通しての考察

授業の中で活用の部分に重点を置きすぎたため、知識・技能を定着させる土台となるパターンプラクティスに時間を十分確保することができなかった。そのため単元テストの結果（解答）では、十分な定着が見られず、改めて基本練習の大切さに気付くことができた。効率化を図ることは必要だが、基本練習も疎かにしてはいけない。また、ICTの活用は授業の効率化に通じるが、文や要点を黒板やノートに残すことが生徒の理解を促進し、家庭学習に役立てられる。ワークシートとプレゼンを活用した授業改善とともに、板書やノートの活用も併せて授業改善の一つとして工夫すべき要素である。

検証授業を通して実感できたことは、興味や必然性を感じるものには、生徒は積極的に取り組むということである。教材自体には生徒は興味をもって取り組んでいたため、言語活動を行う中で、他の生徒との関わり合い（ペア・グループ・全体）など活動の形態を効果的に仕組んで、活用につなげていく工夫が必要である。

IV 成果と課題

1 成果

(1) 新出の文法項目を活用して各単元のまとめの自己表現活動の充実につなげる授業改善

新出の文法項目のパターンプラクティス的な練習から、その使い方を示し、それを参考にして実際に英文を書く活動につながるよう設定する。この流れをワークシートの作成においては意識した。これが円滑な授業の流れを生み、生徒が言語活動を行う上で役立っていた。生徒はワークシートの英文を参考にして書く活動を行い、更にそれを活用して自己表現活動に活かしていた。またペア活動やグループ活動を行ったことが、ワークシートの最後の書く活動を充実させることにつながっており、特に苦手意識をもつ生徒にとっては、準備段階において必要な活動であることが分かった。

活動の説明の効率化を生むプレゼンは、授業時間を有効活用する上で、言語活動における生徒の活動の時間を保証し、また活動の内容や方向を示して、生徒が円滑に活動を行う手立てとして有効であった。

本研究で作成した教材を津久見市の外国語教員と共有し活用することで、活用場面や形態の工夫により有効な指導の発展につなげることができると考える。

(2) 書くことに苦手意識をもっている生徒の学習意欲を向上させる授業改善

教材に関する生徒の反応として、肯定的な意見が多くあり、授業中には生徒が意欲的に取り組む姿が見られた。また、単元テストの結果からも、教材の活用を通して生徒の活用力を高め、「単元のまとめの自己表現活動」や「まとめりのWritingを中心とした自己表現活動」の充実につながっていることがうかがえた。

特に「つまずきの要因」の復習は有意義であったという声が生徒からも教師からも聞かれた。事前に復習事項を確認することで、活動の中では新出の文法項目を活用することに集中させることができた。

単元テストでD評価の生徒が依然として数名いるが、授業での言語活動には積極的に取り組み「楽しかった」という感想が見られた。生徒の身近な題材を取り上げることは、英語を使ってみようという意欲の向上につながる。生徒に必然性を感じさせる教材の果たす役割は大きいと感じる。多様な題材を今後も探っていくことで、生徒の意欲を喚起したい。

2 課題

生徒の意欲をより喚起するためには、教材の難易度をどの程度に設定するのか検討する必要がある。提示する英文が十分理解できずにつまづく生徒もいたことを考えると、単語レベルでの注釈だけでなく、メインの活動の前に、文法や内容理解での生徒のつまずきを防ぐ難易度の設定を、更に追及する必要がある。

言語活動の充実に向け取り組んできたが、それを重視するあまりに、活動前に必要なパターンプラクティスなど練習や板書がおろそかになり活動が中途半端になってしまう傾向があった。1時間の授業の中で活動を効果的に行うための時間配分等、授業のマネジメント力を磨いていかねばならない。

単元テストの結果から、生徒は英文の量を意識して書いているが、正確に学習事項を使えていないことが課題である。正確さを高めていくような添削や教え合いの場の工夫が必要である。また+αの項目に、基本的なディスコースマーカーの使い方や筋道立った論述法を組み込んで、内容のつながりを意識させる指導を、系統的に3年間かけて行うことでの成果を確認していきたい。

3 還元計画

本年度作成した教材集を、来年度以降津久見市の英語教員に、自己表現活動につなげるスモールステップとして活用してもらおう。それを「単元ごとの自己表現活動」、更には「単元のまとまりごとの自己表現活動」(H.25年度長期派遣研修生 第二中学校 遠藤伸哉教諭作成)につなげていく、津久見市英語教育モデルの構築を目指している。それに向けて、本年度中から津久見市外国語部会と連携し、研究を進めている。

来年度からの授業の共有に向け、津久見市外国語部会員と生徒の作品の共有も行ってきた。今後は更に、学校間での共有も計画している。他校の生徒の作品を互いに見合い、自校の生徒へ還元するなど、有効な活用法を模索していきたい。教材と授業を共有することは、特に津久見市のような少人数の部会でこそ取り組みやすく、授業改善に向けた参考として役立つことができるのではないかと考える。授業研究・授業改善を、日常的に共同して進めることも目指していきたい。

本年度中から授業で使用した成果と課題を踏まえ、教材に改良を加えている。来年度の教科書改訂に向けての準備とともに、本年度中に全学年の教科書の新出文法項目ごとの教材集を完成させ、来年度の外国語部会メンバーが確定し次第、共有フォルダを活用してデータ共有を開始する。多忙中ではあるが、共通理解や実践交流の時間をどう生み出していくのかを、共有フォルダの活用などと絡めて検討する必要がある。

これまでの研究成果も活かしながら、まずは知識・技能を習得させる。言語活動でのスモールステップの積み重ねにより、自分の伝えたいことを表現する活動を充実させる。3年間を通して、系統的・継続的に取り組んでいくことで、自由英作文ができる生徒を育成する、津久見市英語教育モデルを構築したい。

おわりに

私たちを取り巻く社会の変化、これから更にグローバル化が進む世の中を生きていく子どもたちのことを考えると、外国語教育に携わる一人として身の引き締まる思いである。

多くの若手教員は、経験の浅さから授業に迷いもっている。また、ICTの活用などの面で不安もっているベテラン教員も少なからずいる。これからの教育現場を想像するに、教員同士の教材や授業の共有を通して、連携した授業改善は有意義であり、必須なものであると考える。津久見市外国語部会のメンバーの年齢構成や、少人数の部会であるからこそできる研修を、連携して進めるきっかけとして、本研究の成果物である教材集を役立てられるよう願っている。

英語学習の初段階でのつまずきをなくす工夫として作成した津久見市独自の「絵動詞チャンツ」の取組は、基礎的な知識技能の習得において、効果的に活用されている。また、自由英作文を書ける生徒の育成に向け、「単元のまとまりごとの自己表現活動」に部会員全員で取り組んできた。これらをつなぐ活動の必要性を感じ、本研究では、スモールステップを意識した教材集を作成してきた。実際の授業の中で感じていた、生徒の「自己表現力」の育成に向けた課題解決に取り組んだ本研究が、新たに津久見市の英語教育の中で活用される。この流れの中で、新たに出てきた成果や課題を共有し共同することで、教員個々の指導力の向上につなげていきたいと思う。そして日々の授業の活性化・授業改善によって、生徒の活用力が更に向上し、私たちが目指す「自己表現力」を身につけた、「自由英作文」を書こうとする、そして書ける生徒の育成につなげていきたい。

＜引用・参考文献＞

引用文献

- (注1) 文部科学省 中学校学習指導要領解説外国語編 2008
- (注2) 大分県教育委員会HP 平成27年度大分県学力定着状況調査結果 (中学校：英語) 結果の分析 領域「書くこと」より

参考文献

- 高橋貞雄ほか40名 「New Crown①②③ English Series」三省堂 2011
- 胡子美由紀 「生徒を動かすマネジメント満載！英語授業ルール&活動アイデア 35」明治図書 2011
- 唐澤博・米田謙三 「英語デジタル教材作成・活用ガイド」大修館書店 2014
- ベネッセ教育総合研究所 「中・高生の英語学習に関する実態調査」2014
- 「中高の英語指導に関する実態調査」2015
- 大分県教育センター 「中学校外国語(英語)『書くこと』実践事例集 2015
- 根岸雅史ほか36名 「New Crown①②③ English Series」三省堂 2015

＜資料 10＞ 津久見市教育モデルイメージ

